



# Impact of Recurrent Ventricular Tachyarrhythmia on Outcome in Japanese Heart Transplant Candidates With a Left Ventricular Assist Device

著者名	服部 英敏
発行年	2019-04-19
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/00032515">http://hdl.handle.net/10470/00032515</a>

# 主 論 文 の 要 旨

Impact of Recurrent Ventricular Tachyarrhythmia on Outcome in Japanese Heart Transplant Candidates With a Left Ventricular Assist Device

(左室補助人工心臓植え込みを行った心臓移植待機患者における反復する心室頻拍の予後への影響)

東京女子医科大学循環器内科学教室

(指導：萩原誠久教授) (印)

服部 英敏

Circulation journal 第 82 巻 第 9 号 2305 頁～2310 頁

(平成 30 年 8 月 24 日発行) に掲載

## 【要 旨】

補助人工心臓の適応は INTERMACS Profile に規定されている。修飾する因子として反復する心室頻拍 (Modifier A) があるが、Modifier A が生命予後に与える影響は明確でない。本研究では日本の心臓移植待機患者における Modifier A の頻度と予後に与える影響について検討した。

2005 年 1 月から 2017 年 10 月までの間に東京女子医科大学で心臓移植登録を行った 18 歳以上の患者を対象とした。反復する心室頻拍は、1 週間に 2 回以上の植込み型除細動器適正作動もしくは体外式除細動器の使用と定義した。主要評価項目は全死亡とした。心臓移植登録患者 66 人を対象とし、観察期間中央値は 1124[14-4499]日であった。16 人 (24%) が心臓移植登録時に Modifier A の定義を満たした。心臓移植登録後に 60 人が補助人工心臓植込みを必要としたが、そのうち 15 人が心臓移植登録時に Modifier A の定義を満たした。補助人工心臓植え込み後の全死亡は、非 Modifier A 群に比べて Modifier A 群で有意に高かった。生命予後に関わる因子について多変量解析を行い、Modifier A のハザード比は 3.43 (95%信頼区間 1.30～8.61、 $P=0.001$ ) であった。

補助人工心臓植え込みを行った心臓移植待機患者において、反復する心室頻拍は予後不良因子であった。